第１５回市民自治推進委員会　産業躍動部会会議録

（敬称略）

◆ 開催日時：平成３０年７月２６日（木）　１８：００～

◆ 開催場所：アーニス２階会議室

◆ 出席部会員：部会長　　川田　弘教

副部会長　吉田　武史

 　　　　　　　部会員　　小川　昌宏

近井　一夫

　　　　　　　　　　　　 宮下　裕次

　　　　　　　　　　　　 安達　陽子

　　　　　　　　　　　　 森元　俊明（協働推進庁内委員会部会長）

【観光経済部次長】

大澤　玲裕（協働推進庁内委員会副部会長）

【商工労政Ｇ総括主幹】

◆ 欠席部会員：部会員　　鈴木　高士

◆ アドバイザー：　　　　荒川　昌伸

◆ 事務局：　　　　　 笠井　康之【市民生活部市民協働グループ総括主幹】

塚崎　翔太【市民生活部市民協働グループ主任】

◆ 議題：観光コンテンツ化を目指した、歴史や自然をめぐるウオーキングコースについて

≪事務局≫

　これまでの話し合いにより、部会の取り組みとして、登別の自然や歴史をめぐるウオーキングツアーの観光資源化を目指すこととなりました。本日は、具体的なコースを決めていきます。

　今回、案が出た当初からお名前の挙がっていた荒川様に、ご助言をいただくためお越しいただいています。またコースを決めるに当たり、荒川様のご助言により、たたき台となる案を作成していますので、これをもとにご審議いただきたく思います。

　話し合いの効率化のため、１時間で結論を出すことを目標といたします。よろしくお願いします。

≪部会長≫

　今日はサポーターとして荒川様にお越しいただいています。荒川様はウオーキングマップを作った市民自治推進委員会都市調和部会の部会員でもあられます。ウオーキングツアーの企画に当たっては、登別の資源である登別軟石をめぐるツアーをご提案いただきました。このコースの内容について説明を伺っていきます。

≪荒川氏≫

　よろしくお願いします。この３年程、登別軟石について調べており、今年４月に札幌などから人を呼んでツアーを催行したところ、面白いという感想が聞かれたので、このコースを提案させていただきました。

　登別軟石は、倶多楽火山が４～５万年前に噴火した際、火砕流として噴出した軽石が高温で溶けて固まったものです。札幌軟石が石材として活用されていたのと同じように、登別にも軟石文化がありましたので、そこに注目しました。

　起点は、スタート地点として使いやすく、また駅舎が登別軟石でできている登別駅です。明治２５年、室蘭から岩見沢まで鉄道が開通するとともに登別軟石の採掘が始まりました。この駅が、登別軟石の生みの親なので、スタート地点としては適切かと思います。

　続いて、やきとりの一平の建物、了英寺の門、光明寺の鐘撞堂や石垣、民家の壁に軟石が使われていますのでそれを見学し、採石場から続く軌道の通っていた石山通を抜けて、アオノ産資の採石場まで行きます。採石場は去年で採掘を終えていますが。そして向かいの、１００年近く前に作られた石工を称えた石碑を見ます。ここの石垣の設計図が去年発見されました。

　そこで折り返し、登別小学校前で知里真志保の石碑などを見ます。石碑自体は黒御影ですが、基礎が登別軟石でできています。登別小学校の校門と校舎奥のもうひとつの校門、また登別中学校の校門も登別軟石です。

　軟石づくしのコースを歩いて、軟石の採掘が終わってしまい、軟石の文化が消えつつあることも感じ取っていただければと思います。

　ここまでたたき台として提案をしましたが、軟石以外のテーマが皆さんから出てもいいと思います。歴史的なことについては、登別市郷土文化研究会の街道先生からもバックアップをいただけることとなっていますので、皆さんからやりたいことを提案していただければ幸いです。

≪部会長≫

　ご提案いただいた軟石というテーマで良いか、またはこのコースに付け加える要素があるかなどについてご意見はありますか。

≪部会員≫

　所要時間は。

≪荒川氏≫

　説明しながらで約２時間です。参加者の状態により前後します。前回は休憩を兼ねて銀のしずく記念館にも寄ったので３時間かかりました。

≪事務局≫

　約３．４ｋｍのコースなので、説明なしで歩き続けると５０分ほどかかります。

≪部会員≫

　２時間コース１本だけでなく、１時間コースを設けてはいかがでしょうか。

≪部会長≫

　良いと思います。ただ、同時に２コースを運行するとなると、案内役がもう１人必要になります。

≪荒川氏≫

　説明はあまり難しくありません。一度見て頂ければ雰囲気がお分かり頂けます。

≪部会員≫

　１時間コースは参加者に資料を持たせて案内人なしにすることも考えられますね。

≪庁内委員≫

　行程を逆回りにして、途中で駅に戻るコース、アオノ産資まで全部見るコース、更に漁港まで行くコースと３種類にしてはいかがでしょう。これなら１人の案内人で対応できます。

≪荒川氏≫

　港近くのフンベ山は最初の採石場ですからね。港からアヨロに至るまでの石もすべて登別軟石です。

≪副部会長≫

　このほか、登別駅から温泉に至るコースも作りたいですね。

≪部会長≫

　まずは今年度中にひとつコースを決めて実際に歩いてみて意見を集約し、それが終わったら次年度以降、別のコースを検討してもいいですね。

≪庁内委員≫

　今後の発展として、市内の絶景ポイントをまわるツアー、地元漁師がこっそり教える釣りスポットをめぐるツアーなども作ると、広がりが出ますね。

≪副部会長≫

　案は色々ありますが、まずは今回いただいたコースで第一歩を踏み出しましょう。

≪部会長≫

　では今回は駅を中心とした軟石をめぐるツアーを基本に考えましょう。時間のある人はツアー終了後に別途港などに足を延ばしていただけるようにしてもいいですね。

≪庁内委員≫

　案内人なしでのウオーキングコースを作るのであれば、都市調和部会の取り組みと同じになってしまいます。産業躍動部会では、観光産業に寄与する取り組みにしたいので、最終的には商品化ができたり、ガイドの方の商売につながったりと、地元にお金が落ちるような、案内人のいるツアーを企画するのが良いと思います。特定の分野に詳しい人が説明をしながら歩くというのもひとつの魅力です。

≪荒川氏≫

　案内人のお客さんとの接し方としては、常に説明をするのではなく、お客さんが自分で見て、感じて、考える時間を大切にしながら何か聞かれた時に答える、というスタイルが主流になってきています。過剰に干渉されるのを嫌うお客さんもいますので。

≪部会長≫

　そのようなスキルや地域の歴史や自然についての知識を持った案内人を発掘することも今後求められますね。全市観光にもつながると思います。

　まとめに入りますが、最終的にコースの長さや時間はどういたしましょうか。

≪庁内委員≫

　初回なので荒川さんにご提案いただいた通りとするのが良いと思います。

コースを決めた後は、これを実施するまでに全部でどのような役割があるのかを洗い出し、誰がそれを担うのか、役割分担を考えなければいけません。皆さんに案を出していただきたいところですが、時間がありませんので、皆さんがよろしければ事務局に役割の洗い出しを一任して、次回分担を決めるということも考えられます。

≪部会長≫

　その方がスムーズですね。

≪副部会長≫

　よろしくお願いします。

≪庁内委員≫

　今年度の取り組みのゴールについては、参加者に配布する説明資料を庁内委員が作成し、それと並行して今年のどこかの時点でコースを実際に歩き、休憩ポイント等を決めるというところまででよろしいですね。

≪部会員≫

はい。

【次回について】

●歴史や自然をめぐるウオーキングツアー開催に向けた役割分担について

８月３０日（木）１８時